

日本経済新聞

再生医療 他人の細胞で

日立は理化学研究所など医療分野の研究開発拠点が集積する神戸市内に「日立神戸ラボ」を1日付で開設する。まず10人前後の研究者を配置する。再生医療分野ではこれまで大学内に自社の研究者を常駐させる例はあったが、自前で研究開発拠点を設けるのは初めて。

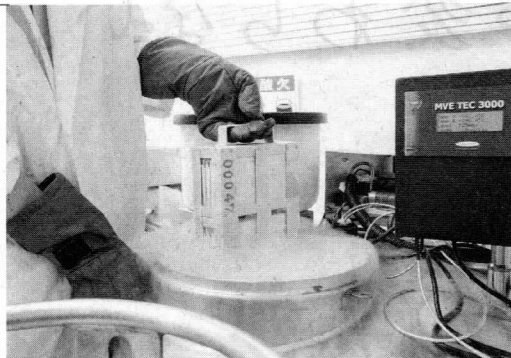
iPS細胞や幹細胞など再生医療に使う細胞を大量培養できる装置を実用化し、数年内に発売する考えだ。子会社で再生医療に使う細胞の受託製造事業に参入した日立化成のオフィスも併設しており、周辺の研究機関と連携し開発を加速する。

日本トリムは胎盤やへその緒などから細胞を採取し、その幹細胞を治療に使う細胞医薬品を開発するヒューマンライフコールド(東京・千代田)を5日付で新設する。

再生能力が高く、免疫による拒絶が起きにくい胎盤などの組織から細胞を取り出し、培養して治療に使う。日本トリムは「民間さい帯血バンク」の国内最大手であるステムセル研究所を傘下に持つ。同社のネットワークを活用してドナー(提供者)

から胎盤などを集めて保管。やけどや自己免疫疾患の治療薬として開発したい考えだ。前もって準備できる他

企業が投資加速 治療費・期間を削減



日本トリムは胎盤などの細胞を使う医薬品を開発する子会社を設立する

人由来の細胞を使うのに加えて、医療廃棄物となっていた胎盤などを活用するため、治療費もかなり抑えられるとみる。こ

れから国内で臨床試験(治験)に入る予定で、2020年にも製造販売承認の取得を目指す。エーザイは歯の細胞を

活用する。全国の歯科医師と連携し、「歯髄細胞」を保管しているベンチャー、セルテクノロ

ジー(東京・中央)と契約した。エーザイがアルツハイマー病やパーキンソン病などの一部を対象に細胞医薬品を開発した場合は、原料となる

歯髄細胞の提供を独占的に受ける。理研などがこのほど実施した他人のiPS細胞を使う目の難病治療は研